資源管理に必要な情報の提供事業－Ⅰ
漁 海 況 予 報 関 連 調 査

久 野 正 博・藤 田 弘 一・山 田 浩 且・沖　　大 樹

目　的

本県沿岸の漁況および海況の調査研究を行い，その結果に基づいて漁海況予報を行うとともに，漁海況情報を迅速に漁業関係者に通報して漁業資源の合理的利用と漁業操業の効率化を図り，漁業経営の安定化に資する。

方　法

熊野灘19測点および伊勢湾16測点において，毎月１回の海況調査を調査船「あさま」で行った。漁況は主要漁業協同組合から統計資料の入手および電話による聞き取りによって収集した。収集した漁況・海況データは取りまとめて解析し，漁海況速報として毎週１回発行した。

結果の概要

詳細については平成16年度漁況海況予報関係事業結果報告書（漁海況データ集）で報告したので，以下は概要を記す。特異的な現象についても漁海況データ集に記載した。なお，漁況については「資源評価調査」で報告した。

１．黒潮流路は，2003年７月以降続いていたＮ型が2004年６月～７月に大きく変化し，８月以降はＡ型（大蛇行流路）となり，その後は年度末までＡ型が持続した。

　黒潮小蛇行が2004年２月下旬に九州南東沖に形成され，３月末にかけて規模をやや拡大させて停滞した。この小蛇行の東端は４月下旬に室戸岬沖，５月下旬に潮岬沖に達した。６月上旬に蛇行東端の一部が潮岬を越え，６月下旬には蛇行本体の北上部が熊野灘に流入した。７月に蛇行北上部が遠州灘に移動，８月に黒潮は安定したＡ型となった。

　潮岬沖の黒潮は，４月～６月前半は接岸基調で経過し，６月後半～７月は黒潮小蛇行の通過に伴って黒潮北縁は100マイル程度まで大きく離岸した。８月以降は50～100マイル程度の離岸した状態が継続し，年度末まで潮岬に黒潮が接岸することはなかった。大王埼沖の黒潮は７月後半以降，100～200マイル離岸した状態が継続した。

２．熊野灘沿岸の水温は，2004年２月～３月の低水温傾向が４月に解消し，５月までは平年並み基調で経過した。６月上旬に黒潮蛇行東端の一部が熊野灘に流入し，熊野灘の水温は急上昇した。６月中旬は一時的に冷水域に入ったが，６月下旬には蛇行本体の北上部が熊野灘に流入し，高水温が顕著になった。７月～８月は黒潮系暖水の影響を強く受けて，平年より３～４℃程度も高めで経過した。９月以降も黒潮内側反流の影響で高水温傾向が持続したが，極端な高水温は徐々に解消した。11月以降は表面～100mで平年より１～２℃程度高め，200mでは平年並み基調で経過した。大蛇行移行後の下層水温は沖合より沿岸で高水温傾向であった。

　浜島の定地水温は，年度を通して平年並み～高め基調で経過した。４月～５月は平年より１℃程度高め，６月は２℃程度高め，７月は２～３℃高めで経過した。８月は平年並みとなったが，９月以降は平年より１～２℃高めが継続した。１月上旬は一時的に平年を下回ったが，１月中旬以降は再び１～２℃高い状態が年度末まで継続した。

３．伊勢湾の水温は４月～６月は平年並み基調，７月～12月は高め基調，１月～３月は平年並み～やや高めで経過した。11月および12月には平年を３℃程度も上回る高水温となり，11月の底層，12月の全層で記録的な高水温を観測した。

　底層における貧酸素水塊（DO2ppm以下）の出現は６月から確認され，10月まで分布していたが，期間を通じてその面積は平年よりも狭かった。

　白子の定地水温は，４月～６月中旬は平年より１℃程度高め，６月下旬～７月中旬は平年を２～３℃も上回った。７月下旬～９月上旬はほぼ平年並みで経過したが，９月中旬～下旬は再び平年を２℃程度上回った。10月は平年値に近づいたが，11月～12月は平年より２℃程度高めで経過した。１月～３月はほぼ平年並みで経過した。

関連報文

三重県(2005)：平成16年度漁況海況予報関係事業結果報告書（漁海況データ集）.